

八木亜夫の

# 交談 楽語

△大阪府護身道連盟、大阪スポーツチャンバラ協会理事長の袖岡一禎さんが、10月から毎日文化センターで「スポーツチャンバラ」を開講。第2、第4月曜午後6時半から▽

「特殊なプラスチックの芯にウレタンを巻きつけたソフ

## スポーツチャンバラ

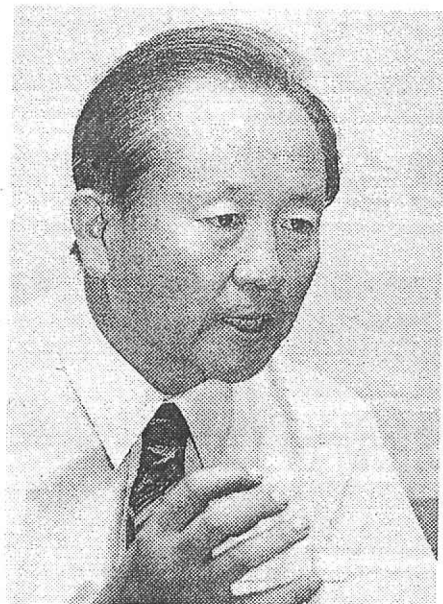
ト剣を使います。長さによって短刀、小太刀、長剣、ヤリがあります。打たれて、ピシッとする痛みはあっても、ケガをすることはありません」

△だから▽

「目と耳を保護する簡単なマスク以外には防具は不要。服装もTシャツ、ジーパンなんでも自由です。試合は一本勝負ですから、150人が参加して、5時間ほどで1人が5試合をスピーディーにできます。相打ちは双方負け。3審制ですが、勝敗は当事者が分かるはずですから、審判なしにするのが理想です」

## 守り重視の護身道

### 捨てる身の相打ちは双方負け



袖岡 一禎さん

△20年前、横浜で始まり、愛好者は全国で4万人。男女、年齢を問わず楽しめる。大阪の連盟ができて3年▽

「スポーツチャンバラというのは、マスキの命名で、本来は護身道です。守りを重視し、身を捨てての相打ちは下策としています」

△乱暴者の無法を注意したばかりに、命を落とす人もあるこのごろ▽

「隣人が助けを求めているのに、見て見ぬふりをしなければならぬのは、やはりおかしい。病んだ社会というほかありません」

△剣や棒がなくても▽

「人間のからだは弱いもので、手の指を折っただけでも戦えなくなります。カバン、傘、クツ、まるめた週刊誌、手近のものをなんでも利用し

て、防ぐことです」

△危険を避けるには▽  
「そういう危険な場面に身を置くことがまず、間違いない。向こうが迫ってきたら、逃げて、相手にしないこと。戦うのは、いよいよよくなったときだけです」

△スポーツチャンバラの心得があれば▽

「火の粉はほらえませす。とこさの場合に冷静に対処できる心得があれば、いつもビクビクしていなくてもすむ。相手を圧倒し、自分をほげますためにも、声を出すことが大切ですが、それもちょうと訓練しておく必要があります」

△53歳。泉南市で紡績業3代目。いまは軍手を生産。京大で中国哲学専攻。自宅に道場「有朋館」。子2人▽

「外国にもたくさん支部ができました。5万種あるといわれる古武道の流派のうちにも属しています」

△異端視されるから、異端視されているようですが、試合の礼儀作法はきちんと守っています」

△講座は、初歩の基本から。徒手護身術も教える。問い合わせは、06・346・8700 毎日文化センター